

氷川神社社報

第42号

発行

石神井氷川神社

練馬区石神井台 1-18-24

宮司 奥野 雅司

電話 03(3997)6032



国の宝としての伝統芸能

宮司 奥野 雅司

新春のお慶びを申し上げます。

近頃日本の伝統芸能が俄かに脚光を浴びているようです。これは映画『国宝』の影響が大きいものと思います。万博の開催で日本文化の発信が盛んになされた事と大河ドラマ『べらぼう』も拍車をかけたでしょう。八代目尾上菊五郎と六代目尾上菊之助の襲名披露も話題になりました。

伝統芸能や技術を優れた技量を以て継承している団体が国の重要無形文化財の指定を受けています。中で特に個人指定を受けた者が通称として人間国宝と呼ばれます。芸を昇華させた“技”を、国の宝として顕彰した尊称なのです。しかしいずれの芸能も一人で作れるものではありません。舞台を支える数多の技能者が居り、それを継承しようと切磋琢磨する弟子が居り、かつ劇場へ足を運ぶ観客があつて初めて完成するのだと思います。

令和八年の干支、丙午を巡る迷信の元になったのが、歌舞伎や浄瑠璃で語られる“八百屋お七”の物語でした。丙午生まれの女性が云々は全くの迷信ですが、人々がいかに芝居見物を楽しみとしていたかが想像できます。

この機会に何か伝統芸能の稽古を始めるのも良いのではないのでしょうか。技を極めんとするのが芸の道なのはもちろん、舞台鑑賞の勘所と美学が稽古を通じて解るようになります。能楽も歌舞伎も浄瑠璃も雅楽も落語、神楽や舞踊も皆、それぞれに日本文化の一翼を担っています。何か伝統芸能の稽古を積む事で、自分の中に何か糧となるものを育む事が出来ると思います。それはやがて内面に輝く宝となることでしょう。

令和八年が情熱に溢れる輝かしい一年となりますよう、皆様のご多幸とご健勝を謹んでお祈り申し上げます。

令和八年のお正月

昇殿祈禱について

企業参拝を除き、祈禱受付は予約を承っておりません。元日～十二日の受付場所は儀式殿で、直接申し込み用紙に必要事項を記入して下さい。厄除けにしましては、必ずご本人にお出まし頂き、社殿にお上がり頂きます。遠方にお住いの方の代理祈禱はできません。

●祈禱及び待合につきましては、皆様一緒にお上がり頂きます。

締切時間の十五分前頃は受付が大変混み合う場合がございますので、早めの受付をお願い致します。

●儀式殿・社殿内ではマスクの着用は各自のご判断で行ってください。尚、体調がすぐれない方は日を改めて頂くか、マスクの使用をお願い致します。消毒液は随所にご用意いたしますのでお使いください。

●社殿での祈禱は換気を確保致しております。また、祈願主の玉串奉奠については、通常通り行っております。

●四日以降も随時祈禱の受付を致しております。一月五日～一月九日までは、仕事始めのため地元企業の予約優先となりますが、それ以降一月中の祈禱開始時間は通常の時間に加えて十二時の回が加わり、一日六回ご案内致しております。各回開始十五分前が受付締切りの時間です。詳しくは本社報の

三頁をご覧ください。

御札・御守授与所

●お並び頂く場所は看板をよくご確認ください。授与品の列・おみくじの列それぞれにお並び下さい。

●おみくじは、なるべく消毒液をお使い頂いてから引いてください。

企業参拝（仕事始め）について

仕事始めの予約を受付ております。予約優先ですので、ご希望の日時がある場合にはお早めにご予約下さい。ご予約時には何点か確認をさせて頂く事項がありますので、詳しくはお電話にてお尋ねください。

☎ 〇三（二九九七）六〇三二

※受付時間九時～四時

氷川神社の体験・講習会

「手作り味噌」仕込み講習会開催

何回か過去に開催をしております「手作り味噌」の仕込み講習を今年も計画しています。開催の日は現在未定ですが、一月下旬～二月上旬頃を予定しています。日時・参加費等決まりましたらお知らせ致します。

自分で仕込んだ自家製味噌を「手前味噌」と云います。じっくり寝かせて醸成しますので、料理に使えるようになるまで約半年を要します。雑菌の混入を防ぐために、仕込みは寒い時期に行なうほうが良いとされています。一から作るならば、原料の大豆を洗えばよく水に漬ける作業もしなければなりません。講習会では、大きく分けて三段階の作業を行ないます。

① 大豆をつぶす

（大豆を戻して煮るところまで済んでいるもの）

② 潰した大豆に麴を混ぜ合わせる

③ 容器（タッパー等）に詰め蓋をする



会場は神社西側の納屋前で行います。募集は三十名程度を考えていて、リピーターの方も沢山おいでです。自前の桶がある方は、持参して頂ければ桶代はかかりません。

開催日時・参加費等決まりましたら境内掲示板及びHPにてお知らせいたしますのでお申込み下さい。定員に達し次第受付は終了となります。お子様の参加もお待ちしております。

元日～4日までの行事・祈祷受付

日にち	行事	備考
元日	<ul style="list-style-type: none"> ●歳旦祭 0:00～ ●古札お焚き上げ神事 ●新年祈祷 <p>※祈祷に関しましては 本社報の二頁～三頁 を必ずご確認ください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●お炊き上げ所にてお炊き上げを随時行っております ●祈祷受付は9:00～15:45で、各回の開始15分前が締め切りです <p>【 祈祷開始時刻 】</p> <p>1回目: 10:00 (9:45受付締切)</p> <p>2回目: 11:00 (10:45受付締切)</p> <p>3回目: 12:00 (11:45受付締切)</p> <p>4回目: 13:00 (12:45受付締切)</p> <p>5回目: 14:00 (13:45受付締切)</p> <p>6回目: 15:00 (14:45受付締切)</p> <p>7回目: 16:00 (15:45受付締切)</p> <p>※一般祈祷に関しましては、<u>予約無しでお受けしております</u></p> <p>※各回の受付締め切りは開始15分前です</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お札・お守り等の授与はお札受所にて以下の時間で行っています 6:00～18:00 <p>●元日午後は里神楽があります (演目は当日社務所にてお問い合わせ下さい)</p> <p><u>※午前3時～午前6時迄、社務所受付を閉めますのでご注意ください</u></p>
2日～4日	<ul style="list-style-type: none"> ●古札お焚き上げ神事 ●新年祈祷 <p>※ 祈祷に関しまして 不明な点は電話にて お問い合わせください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●お炊き上げ所にて随時行っております <p>※お焚きあげ神事は元日～4日のみです</p> <ul style="list-style-type: none"> ●祈祷受付は9:00～15:45で、各回の開始15分前が締め切りです <p>※一般祈祷に関しましては、<u>予約無しでお受けしております</u></p> <p>※祈祷開始時刻は上記参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お札・お守り等の授与はお札受所にて以下の時間で行っています 8:00～18:00

5日(月)以降の祈祷時間・御札受所

日にち	祈祷開始時間
<u>5日(月)、6日(火)</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●5日、6日の一般祈祷は10時、12時、14時、16時の4回のみです 地元企業及び地域団体の予約優先となっております (予約が入っていない場合には、規定時間以外でも一般祈祷を行います) ●お札・お守り等の授与はお札受所にて通常通りの時間で行っております 9:00～16:00
7日(水)以降	<p>1月中は昼の12時の回を含み、1日6回(10時から1時間おき)です</p> <p>※11日、12日と18日は地元野球部の予約が優先になる場合があります</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お札・お守り等の授与はお札受所にて通常通りの時間で行っております 9:00～16:00

令和八年は丙午

令和八年の干支は午

令和八年の干支である馬は、哺乳綱奇蹄目ウマ科の草食動物で、馬以外に驢馬（ロバ）と縞馬（シマウマ）がいます。性格はおとなしく、家畜として世界中に分布しています。脚が長く走ることを得意とし、面長で長い頸を前に出すことで重心を前に移動し易くしており、速く走ることができます。

馬は犬や猫のように背中を丸めて走らないので、人が乗るには大変都合が良く、走るのも速いことから騎乗するには最適の動物でした。



馬は警戒心が強くおとなしい性格で、人を信頼し馴染みやすいことから、飼育しやすい動物とされています。耐久力と牽引力に優れているため、食用というよりは家畜化によってソリや車の牽引に重宝されました。

馬の字が使われている用語で身近なものの一つに『馬力』があります。馬力は仕事率を示す単位で、一馬力の定義は「一秒あたり七十五kgのものを一メートル動かす力」とされています。

現在馬車を見ることは殆どありませんが、綺麗に装飾された儀装馬車は、新任大使が今上陛下に信任状を奉呈する際や、皇室の重要な儀式の時に用いられています。

丙午はなぜ有名？

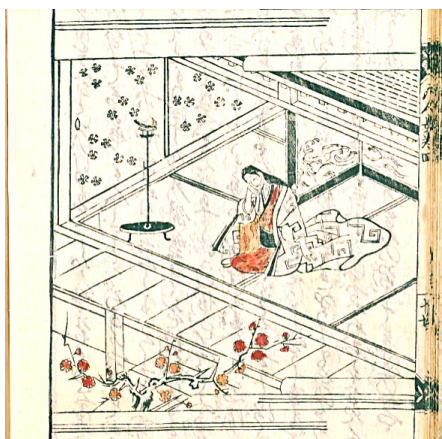
今年の干支は丙午（ひのえうま）です。丙午は、六十ある干支の中でも、最も有名な干支の一つと言えます。十干の丙と十二支の午は共に陽の火を表すことから、同じ性質の五行同士（火）が合わさってより力を増す比和という関係を作ります。更に、属性も共に陽であることから比和の関係をより強く進めることを意味しています。

す。これらのことから、丙午は周囲を明るく照らし、溢れる情熱で周りの人々の心に火を灯し、周囲に炎を広げてゆくと言われていました。しかしながら、その勢い故に炎が広がりすぎてしまうことがあり、強い情熱を持って突っ走った結果、辺りを焼き尽くしてしまうといった一面も持ち合わせています。江戸時代には、丙午は火の災いが多い年とされていました。

天和二年に、駒込でお七という丙午生れの女性が放火した“お七火事”と呼ばれる火事があり、その五年後の貞享三年に『好色五人女』（井原西鶴）の中でお七を題材とした文学作品「恋草からげし八百屋物語」が書かれたことで、お七は一躍有名になりました。

主人公のお七は火事で家を失って、一家で円乗寺前に仮住まいを構えますが、お寺の若い僧侶吉三郎と恋仲になります。そんな中、家の修繕が完了したためお七は家族と共に自宅に戻りますが、家族の留守中にお忍びで会いに来た吉三郎を家に上げてしまいます。なかなか会えないもどかしさから、家が燃えてしまえばまたお寺の前に住めると考えたお七は、自宅に

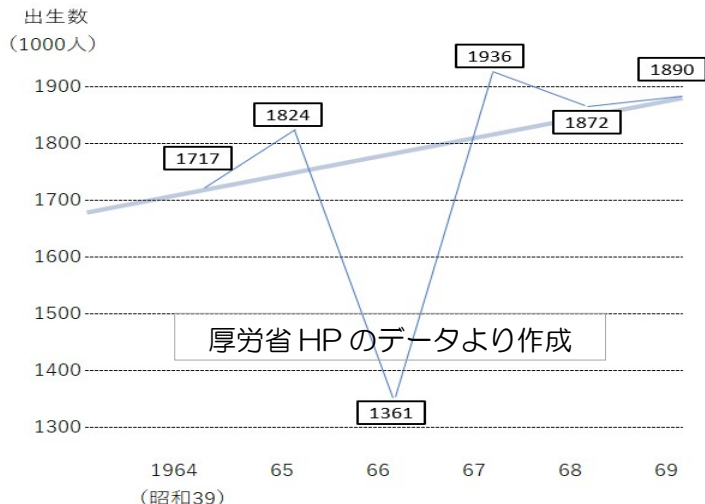
火を放ってしまいます。しかし、火事の現場近くにいたお七は、近隣住人の証言により直ぐに捕まってしまいました。実際の火事はぼやで済んだようです。この一件は「丙午の女性は思い込みが強く気性が激しい」と言われるようになった要因の一つとされています。また、この話は後に様々なアレンジが加えられながら歌舞伎や浄瑠璃、落語などの演目として人気がありました。



「恋草からげし八百屋物語」お七

実際に丙午の出生率を見ていると、明治三十九年の出生率は前年比で七％減少し、昭和四十一年には前年比で二十五％減少しています（厚労省HP）。特に昭和の時は、新聞・雑誌が取り上げたことで「丙午に女児が生まれると結婚できないのではないか」といった

風潮が生れ“出産ずらし”が流行ったという分析もあります。
厚労省のHPに掲載されている情報を元にグラフにしてみると、出生予想を示す太い線で示される推移に対して、出生数は昭和四十年の前後で増加しており、単なる出生数の減少ではなく、出産時期をずらした人が多かったと考えてよさそうです。このような現象は日本で見られず、非常に珍しい現象と考えられています。



いろいろな印象を持たれている丙午ですが、生れは有名な方々が非常に多く、文仁親王妃紀子様が

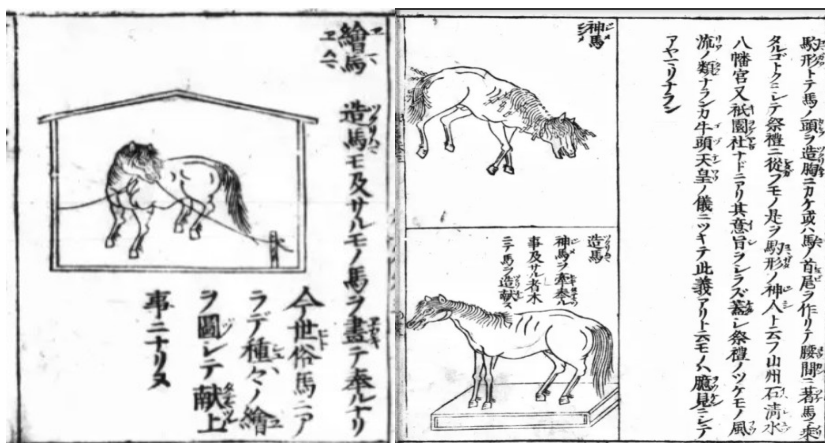
はじめ、芸能人では小泉今日子さんや広瀬香美さんなど活躍されている女性が数多くいらっしゃる。丙は陽の火なので太陽に例えられ、午も陽の火ですがこちらは真夏の生命力豊かな状態に例えられますので、総じて丙午を干支に持つ方は非常にエネルギーで周囲への影響力がとて強く、周りを強力に照らすイメージです。六十ある干支の中でも最強との呼び声もありますので、リーダーシップに富んだ才能豊かで活発な方が多いのでしょうか。

神社における馬

昔から馬は神聖な生き物として考えられており、現在でも神宮をはじめ下賀茂神社など馬を飼育している神社は多くあります。祈願者が奉納として馬を納める習慣は昔からあり、本物の馬を納めるのが本来ですが、木彫りの像や絵馬でも良いとされてきました。これは、江戸時代の『神道名目類聚抄』で書かれており「神馬ヲ奉奉ル事及サル者木ニテ馬ヲ造献ス」とあることから、馬を奉納できないものは木彫りの像を納めよとしています。

また、像の奉納も難しい場合に

は「造り馬モ及サル者絵馬ヲ畫テ奉ルナリ」とあり、馬を描いて納めよと書かれています。



このように神馬像や絵馬の奉納は盛んに行われていましたが、どちらの場合も、“代わりに”という表現が無いことから、馬の代用品という扱いではなかったと思われます。神聖な馬の姿形を模したものであれば、像であれ絵であれ独自の力を持っていると考えていたのでしょうか。現在でも絵馬はこの神社でも見かけるものとなっ

ています。また、絵馬と称するものの中には馬以外のものが描かれているものもあります。絵馬は主に祈願目的で描かれるもので、人がお祈りを捧げている絵や干支が描かれたものなど様々で、現在では奉納される板絵の総称を絵馬と呼んでいます。

丙午の過ごし方

丙午は陽火の比和であることから活発な年になるでしょう。太陽の明るさと真夏の暑さや生命力が相まって、いろいろなことに拡がり、と明るさをもたらします。

特に昨年の乙年に向上心を持って努力を重ねてきた方は、更にその成果をいかに発揮して、様々なことに拡がりを見せていくことでしょう。昨年同様に、大きくならず火の扱いには注意して、一人で突っ走ることの無いよう気を付けながら、存分に活躍の場を広げて下さい。

「人間万事塞翁が馬」とも言いますが、本年は丙午の勢いにあやかって、自分を信じ情熱と節度を持って手広く様々なことに取り組んで下さい。

皆様にとりまして良い年となりますようお祈り申し上げます。

第六十三回 式年遷宮

第六十三回式年遷宮

三重県伊勢市に鎮座する神宮は日本の総氏神様で、伊勢神宮とも呼ばれ親しまれています。神宮では二十年に一度「遷御の儀」が行われるため、内宮と外宮の神様がお鎮まりになっている御社殿は新しく作り改められます。次回の式年遷宮は第六十三回で、今から七年後の令和十五年に「遷御の儀」が執り行われます。



これに合わせて、御饌殿や宝物殿など全ての殿舎に加えて玉垣、鳥居、宇治橋なども作り改められます。宝物殿においては、中に収蔵されている御神宝も全て新たに作られます。

数々の神事

昨年四月八日に今上陛下より御聴許を賜り、式年遷宮の行事が始まりました。昨年五月の山口祭六月の御杣始祭をはじめ、これからおよそ三十の神事が行われてゆくことになります。

今年の五月からは第一次御木曳行事が始まります。本来御木曳には伊勢市民しか参加することはありませんが、伊勢市民でなくとも特別神領民として参加することができますので、全国よりたくさんの方が集まって奉曳を行います。前回の式年遷宮では、当社も多くの氏子さん方と共に特別神領民としてこの行事に参加致しました。

今後数々の神事が続きますが、令和十年には社殿の地鎮祭が行われ、令和十一年には宇治橋渡始式が行われる予定となっています。

遷宮で用いられる御用材



平成十八年五月 特別神領民として参加

神宮の森は「神宮林」と呼ばれます。元々御用材の調達には神宮の裏山で自給できていましたが、徐々にそれが厳しくなり、国内の山林から不足分を調達してきました。しかしながら、式年遷宮で使用する御用材を再び自給にするべく「森林経営計画」が大正十二年に始まり、二百年後には実現できるよう植林が進められてきました。御用材を調達する山を御杣山（みそまやま）と言いますが、二十年前に木材が必要になるので、不足している木材は様々な場所から調達してきました。千七百年代以降は長野の木曾谷から杉の木を伐り出していますが、式年遷宮に

必要な御用材は約八千五百立方メートルと言われ、本数にすると約一万本となります。中には直径一メートル余り、樹齢四百年以上の巨木も用いられます。

古くて新しいもの

長い時間と行事を重ねて行われる式年遷宮ですが、御社殿や御神宝は書物や写真だけではなく実物を見ながら同じものを作ることができます。二十年に一度なので、前回携わった職人や宮大工から指導を受けながら、様々な技術やノウハウが継承されています。

二十年を区切りとして遙か昔から繰り返されてきた式年遷宮によつて、千三百年前に作られた御社殿は当時のままの姿で新しく生まれ変わります。つまり神宮の御社殿や御神宝は「古くて新しいもの」なのです。



例祭 齋行

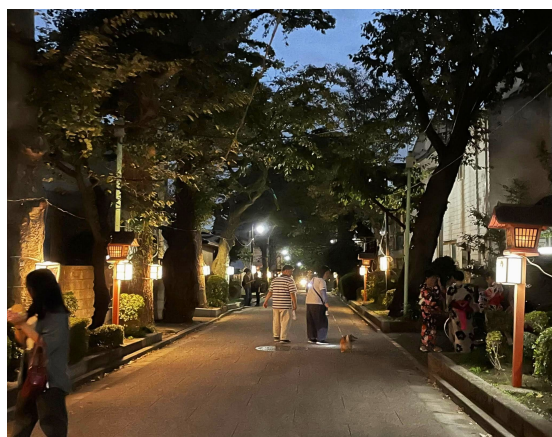
十月十九日（日）年に一度の例祭を齋行致しました。毎年十月の第三土日が例祭日になっていますが、今年は本来の例祭日である十九日にあたりました。当日は雨も心配されましたが、開式時間の午後二時には雨もあがり、滞りなく齋行されました。



また、今年から露店は参道には出店しないこととし、境内での出店を増やすようにしました。代わりに、参道では広告行灯を設置致しました。

この広告行灯は、例祭の期間中並びにお正月三が日には参道に行

燈を灯すことと致しましたので、ご希望の方は社務所までお問い合わせ下さい。



新嘗祭 齋行

十一月二十三日（日・祭）に、新嘗祭が行われました。

午後二時から齋行された新嘗祭には、境内の神田で収穫した対馬赤米が供えられました。

今年は非常に日照時間が長く暑かったため収穫量も十分で、職員が手作業で丁寧により分けたお米が供えされました。

式典には一般の参列者の方も含め多くの方々にご参列を頂き、式典は滞りなく齋行されました。祭

典では、例年通り宮司舞「朝日舞」が奉納されました。



大晦日の「大祓い」

大晦日の夕方には境内で大祓いが行われます。大祓いは年二回、夏と冬の年二回行われる神事で、夏の大祓いは「夏越しの大祓い」と呼ばれ、当社は七月一日に行ないます。冬の大祓いは「年越しの大祓い」と呼ばれており、大晦日の夕方に行われる神事です。夏の大祓いには「茅の輪くぐり神事」が併せて行われますが、大晦日の神事は神職のみで奉仕されます。

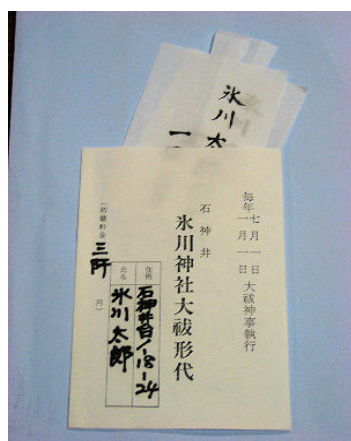
大祓いは、知らず知らずのうちに犯した罪穢れを祓い、災いを防ぎ病を患うことなく無事に過ごせるよう祈る神事です。神事が行われる前までに、下の写真のように

「おひと形」（人の形に作った紙）にお名前などを記入して神社に納めてください。

まずお名前を記入し、その下に年齢（数え年）を書いて下さい。

人形は、男性用・女性用と二枚入っていますので、それぞれ並べて名前をお書き頂きましたら袋に戻し、初穂料と一緒に納めて、社務所受付へお持ちください。

大祓い神事の折、お預かりした「おひと形」をお祓いして、忌火でお炊き上げいたします。



人形の書き方の詳細はこちら



氷川神社行事予定

(春・夏)

祈年祭

三月初旬

【行事】一年の豊作を祈願する神事。秋の新嘗祭に対応する祭典。神田の種粃をお供えし、諸作物の豊作とともに虫害や天候による災害がないことを祈ります。

一心泣き相撲

【日程】

四月十八日(土) 午前中

【場所】氷川神社境内

泣き相撲とは、赤ちゃんの健康と成長を祈願する日本の伝統行事です。赤子の泣き声が邪を祓った故事を由来とし、化粧廻しと紅白綱を締めた赤ちゃんは力士に抱えられて土俵へあがります。

泣き相撲の開催日は、近年の猛暑日の多さを鑑み、安全且つ楽しく行事にご参加頂けるよう日程の変更を検討して参りました。本年からは、春先の暖かくなってきた頃の開催と致しましたので、皆様のご参加をお待ちしております。

井のいち

五月十七日(日) (予定)

【場所】氷川神社境内

【行事】第十五回となる神社境内一円で行なう複合イベント。クラフト作家の作品販売。神楽殿ではライブ演奏。飲食店の出店他、各種ワークショップあり。雨天決行。

夏越の大祓

七月一日(水) 十六時斎行

【場所】氷川神社境内

【行事】夏越しの大祓式は、夏を無病息災で過ごせるように行なう

祓い。形代にお名前を記して祓い料を添え、当日までに神社に納めれば誰でも参加できます。詳細は後日神社社頭または社報・HP等でお知らせします。

ちやが馬七夕

【日程】八月二日(日) 夕刻

【場所】氷川神社境内

月遅れの七夕を祝う催し。夕刻から夜にかけて行われます。飲食店を中心に出店があります。神楽殿でライブ、パフォーマンスあり。七夕祭は夕刻より斎行します。

蘇民将来あります

当社では暮れからお正月にかけて蘇民将来をお頒ちしています。数量限定のため無くなり次第終了です。取り置き致しませんので、ご希望の方は早目にお越しください。大きさは二種類あり、小が二千円・大が二千五百円です。



この蘇民将来は、当社の御祭神である須佐之男命の御神徳をたたえて調製した注連縄です。

須佐之男命が詔り給く「後世疫病あらば、蘇民将来の子孫となえよ。しからばその家の人は難を免れなむ」。この注連縄はこのご神託に基き、これを家の門口か神棚にかけておけば疫病災難から護られるという尊い注連縄です。